




令和5年度空海セミナー

「弘法大師生誕1250年をめぐって」

主催：前山地区いきいき事業協議会・おへんろつかさの会
後援：さぬき市・さぬき市教育委員会・さぬき市観光協会



記念講演会 次第

1. 開会
2. 主催あいさつ
3. 来賓あいさつ
4. 講演
5. 閉会



【講師プロフィール】

胡 光（えべす ひかる）

愛媛大学評議員 / 法文学部教授 /
四国遍路・世界の巡礼研究センター長

1966年愛媛県生まれ。九州大学大学院博士課程の単位を取得し、香川県庁に入庁。香川県歴史博物館建設や文化財管理に携わる。

2011年から、愛媛大学法文学部准教授として、日本史を担当。現在、教授。四国遍路、四国の大名、四国の祭礼の研究が専門。四国遍路・世界の巡礼研究センター長として、四国遍路の世界遺産化に関わる委員を多数務める。

共著に『四国遍路の世界』『巡礼の歴史と現在』『四国遍路と山岳信仰』『回遊型巡礼の道・四国遍路を世界遺産に』『世界遺産・聖地巡り』などがある。

弘法大師生誕1250年をめぐって

愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター長 胡光 えへす

【参考文献・史料】

- ① 松原秀明編『徳川時代の善通寺』総本山善通寺、一九八九年
- ② 『善通寺史』（総本山善通寺、二〇〇六年）
- ③ 『創建1200年空海誕生の地 善通寺』香川県立ミュージアム、二〇〇六年
- ④ 武田和昭『四国辺路の形成過程』岩田書院、二〇一二年
- ⑤ 四国遍路・世界の巡礼研究センター『四国遍路の世界』ちくま新書、二〇二〇年
- ⑥ 四国遍路・世界の巡礼研究センター『四国遍路と世界の巡礼』創風社出版、二〇二二年
- ⑦ 善通寺文書

はじめにー空海誕生の背景

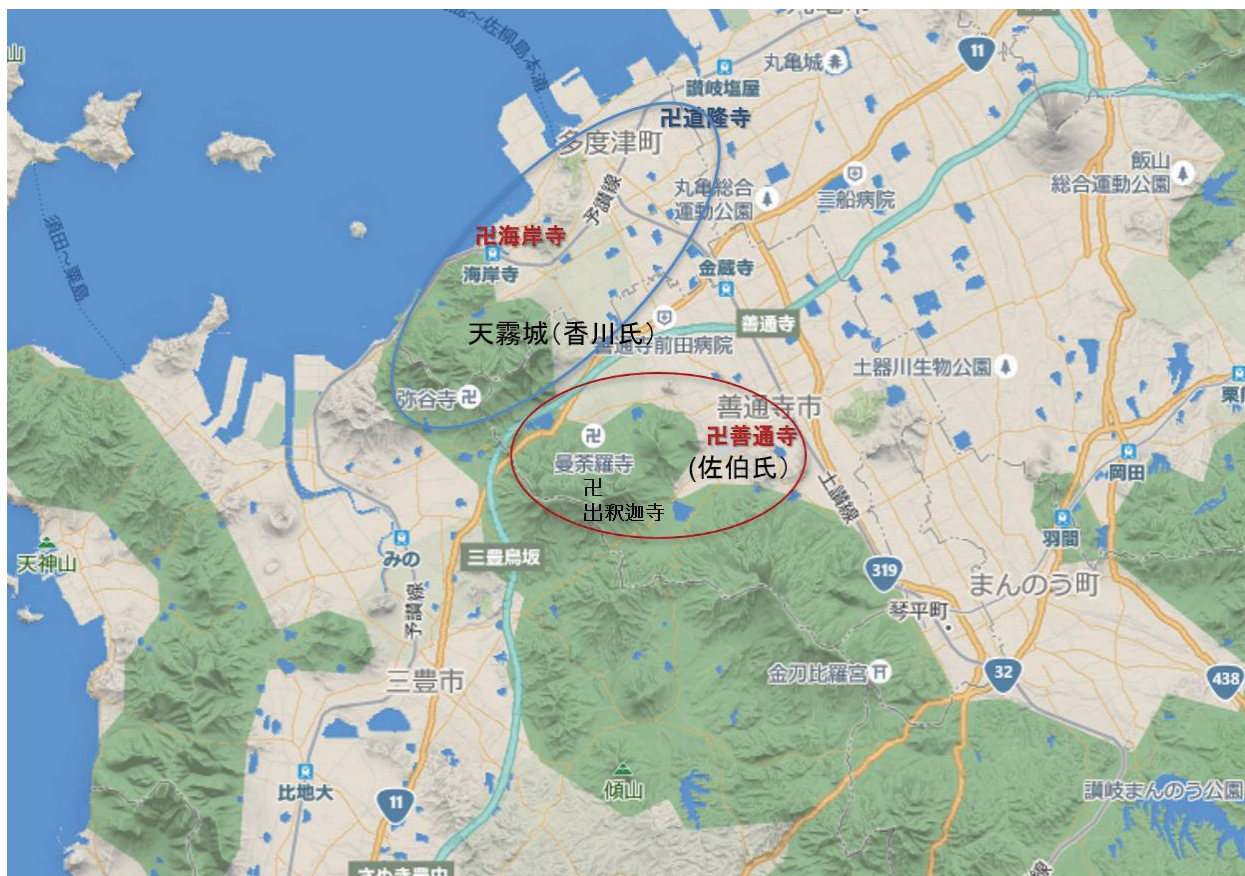
【自然的背景】 丸亀平野 ‖ 穀倉地帯 屏風ヶ浦 ‖ 交流

五岳山（火上山・中山・我拝師山・筆の山・香色山） ‖ 修行の場所

【文化的背景】 古墳文化↓仏教文化（古代寺院成立） 地方豪族佐伯氏
的存在
国指定史跡 有岡古墳群・野田院古墳、王墓山古墳、宮が尾古墳 など

巨大、円墳、前方後円墳、積石塚、県内最古の横穴式石室、船などの線刻画
金銅製冠帽、鉄剣、ガラス玉、土師器

⇒ 強大な権力と富を持った一族、朝鮮半島、九州、中央政権（大和）の影響
⇒ 国造佐伯氏、さえず（騒がしい、様々な言葉を話す）、渡来人（司馬遼太郎『空海の風景』）空海の唐での活躍



空海と弘法大師の誕生

【父】

- ①佐伯道長
- ②佐伯田公
- ③佐伯善通
- ④藤新大夫



善通公像

【母】

- ①阿刀氏女
- ②玉寄姫
- ③あこや御前



玉寄姫像

【誕生地】 ①善通寺 ②海岸寺 ③難波津（大阪市）

佐伯真魚 宝亀5年（774）6月15日生

空海 延暦23年（804）4月7日得度。入唐

承和2年（835）3月21日高野山で没／入定

弘法大師 延喜21年（921）醍醐天皇が大師号贈る



稚児大師像(全て善通寺蔵)

【資料1】讚岐国多度郡屏風浦善通寺之記(善通寺蔵)抜粋 江戸時代写

大同二年（807）蛾月朔日斧始めありて善通寺御建立、仙山ナリト、尾背山より木材を運び、弘仁四年（813）六月十五日伽藍落慶す：弘安四年（1281）後宇多院帝御世之論旨曰、當寺ハ功德大領善通（田君之御事）之建立、弘法大師御誕生之靈地也、

【資料2】空海『聳誓指帰』弘法大師全集より抜粋要約／原漢文

玉藻帰る所の島、予樟日を蔽すの浦に住す

【資料3】空海『三教指帰』日本古典文学大系より抜粋要約

「卷上序」十五歳で、母の兄弟・阿刀大足に論語などを学んだ。十八歳で大学に学び、勤勉した。一人の修行僧に虚空蔵求聞持法を教わり、阿波の大瀧嶽（現二十一番札所太龍寺）に登り、土佐の室戸崎で修行した。修行の成果があり、明星（虚空蔵菩薩）が姿を現した。

「卷下仮名乞児論」（二十四歳以前）金巖（大和金峰山か伊予出石寺）に登り雪に逢って困り、石峯（伊予石鎚山）にまたがって断食して苦勞した。

【資料4】空海『御遺告』弘法大師空海全集より抜粋要約

私は生まれて父母の家に在った五・六歳のころ、常に仏の夢を見た。父は佐伯氏、讚岐多度郡の人、母は阿刀氏である。伯父の阿刀大足に学んだ。十五歳で入京して、石淵僧正大師（勤操）に大虚空蔵等の法を授かった。大学では儒教を学んだが、仏教の方が優れていると思ひ『三教指帰』を著した。断崖絶壁に独り苦行をした。阿波大瀧嶽に登って修行し、土佐室戸崎で瞑想した。心に虚空蔵菩薩を感じた時、口中に明星が入った。厳しい修行を二十歳まで続けた。：弘仁七年（八一六年・四十三歳）紀伊国南山（高野山）を賜るよう願ひ、瞑想の場所とした。

：私は去る天長九年（八三二年・五九歳）十一月十二日から穀物を摂らず、

座禅を行っている。これは仏の真理の為、後世の弟子門徒のためである。弟子達よ、よく聴きなさい。私の生涯はわずかである。あなたたちは仏の教えを守りなさい。私は永遠に高野山に帰ろう。私が入滅するのは、三月二十一日早朝である。弟子達よ嘆いてはいけない。三法(仏法僧)を信仰しなさい。私に代って仏が目をかけてくれる。私は生年六十二歳、出家して四十一年になる。百歳まで仏の教えを守ろうと思っていたが、弟子に託して、あわただしく永遠にこの世を去ろうと思う。

【資料5】『続日本後記』平安時代 貞観十一年(八六九) より抜粋要約

「承和二年(八三五)三月二十一日、大僧都伝燈大法師空海、紀伊国禅居で没す。…法師は、讃岐国多度郡の人、俗姓佐伯直、十五歳で阿刀宿祿大足に文書を習い、十八歳で大学に学ぶ。一人の修行僧に虚空蔵求聞持法を教わり、阿波の大瀧獄(現二十一番札所太龍寺)に登り、土佐の室戸崎で修行した。修行の成果があり、明星(虚空蔵菩薩)が姿を現した。…自ら終焉の志があり、紀伊国金剛峰寺に隠居した。没年、六十三歳。

【資料6】「弘法大師空海根本縁起」(武田和昭氏著書)

四国讃岐の多度郡白方屏風が浦に藤新大夫と申す漁師あり、其の内に阿こやと申す女人座り、未四十歳のいんに入迄、子なき事を悲み、俄に善根を為さばやと思ひ、…堂社仏閣を建立し、則此願成就し、津の国中山寺に参り…三七日満つる夜の御夢想に、西の海より金の魚を阿こやが胎内へ吞入るとぞ御夢想をかうむり、…宝亀五年甲寅の六月十五日との一天にご誕生有り、…美敷男子也、然に此御子、程無夜泣をし給事限無し、…津国中山寺に参り、三七日籠り観音の夢想をかうむり、…急ぎ棄てよと仰せける、御母聞召、金の魚を御夢想にえたるに依て、御名を金魚丸と付給ひて、錦に包み千世の原に捨て給ふ、

弘法大師誕生地争論

屏風ヶ浦五岳山誕生院善通寺

- ◆平安時代後期までに生誕説
延久4年(1072)「件寺者…大師聖靈誕生之砌也」
東寺百合文書
- ◆南北朝時代までに真言宗の弘法大師正伝成立
14世紀「弘法大師行状絵詞」東寺
父は佐伯田公、母は阿戸氏、幼名は真魚
- ◆江戸時代前期の遍路ガイドブック(大坂出版)
真念、寂本(高野山)は異伝を批判
貞享4年(1687)『四国徧礼道指南』
元禄2年(1689)『四国徧礼霊場記』
- ◆丸亀藩に海岸寺を訴える 文化12年(1815)
- ◆曼荼羅寺、出釈迦寺、本寺随心院、九条家 智積院仲裁
- ◆丸亀藩から多度津藩を通して判決文化14年(1817)
「誕生」呼称禁止、産盥公開禁止
- ◆真言宗長者(東寺)が海岸寺規制明治29年(1896)
- ◆真言宗各派分立によって無効

屏風ヶ浦納経山迦毘羅衛院海岸寺

- ◆江戸時代初期までに生誕説
寛永15年(1638)大善坊が仏母院と改名
- ◆江戸時代初期までに弘法大師異伝成立
承応2年(1653)澄禅「四国辺路日記」に記録される
仏母院の僧が熱弁、弥谷寺に父の像あり
父は藤新大夫、母はあこや御前、幼名は金魚丸
香川氏、衛門三郎が辺路する。八十八ヶ所成立
『弘法大師空海根本縁起』
- ◆江戸時代前期には広まる
元禄元年(1688)土佐一之宮で同種本刊行
『奉弘法大師御伝記』
- ◆江戸時代中期に生誕地アピール
安永年間(1772-81)産盥の登場
寛政10年頃(1798)両親・大師童形を産盥堂に安置
「大師降誕之霊地」図販売、屏風浦呼称、道標設置
- ◆本寺道隆寺、弥谷寺、大本寺「嵯峨御所」大覚寺
- ◆「産生」「出化因縁の地」呼称
- ◆明治維新後「御誕生所」、産盥公開

【資料7】文化14年（一八一七）海岸寺一件結末書（善通寺文書）

「弘法大師御誕生所一件御達之事」

（丸龜藩達）文化十四年丁丑三月廿三日御達

以手紙申入候、然者白方海岸寺儀、近年大師誕生所与申立追々と世上江今流布候内、八ヶ条者於京都 嵯峨御所被差止候得共

別館之事

産盥之事

屏風浦之事

右之分者、地處二拘り候儀ニ付此表之御裁断ニ被任度旨ニ而 九條様、并隨心院門跡方其已来追々惣合有之候、依之右三ヶ条取上、取扨等之儀ニ付、去冬各江茂委細ニ申達置候通、其砌老岐守様御家中江も及掛合候哉：誕生院方夫々被及言上候方可然旨存候条、是亦同院江被申承置候様ニと存候、已上

三月廿三日 岡 織部

菅 四郎兵衛殿

土岐権之丞殿

猶以嵯峨御所江も去冬各方被申越義も有之候ニ付、本文振合相替候義、猶又不申遣而者相成間敷哉、猶存迄可被申聞候、已上以手紙申達候

（多度津藩達）

白方村

海岸寺

右

御本家様御領

誕生院方

大師誕生所ノ義ニ付差纏一件誕生院方京都本山表江被訴候ニ付御本山 嵯峨御所方御呼登有之候、即解書ヲ以被 仰渡通

繪旨院宣ニ差障り候条々奉相憚向後誕生所と聊紛ハ敷義無之様、急度相守可申事

一、産盥の儀後右ニ付、御本家

長門守様方 思召ヲ以、被 仰出候御義もいたし、旁新堂造作勿論諸事仰出したし不申様、是又前段産盥与相唱候石器年久敷伝来卜者、乍申後人ノ作ニ付、参詣之輩迷候端ニも、可相成候条、向後諸人江見せ候義者、急度可相無用事、

一、建石之義者、根元道しるべ之事ニ而、

御本家様より被 仰出候御儀も有之候、旁在来之分者、屏風浦之文字を改書敷、肩書ニ白方海岸寺道又ハ白方道兩扱之内彫替可申、素方自今新規ニ取建候義ハ堅可為無用事

一、別館事 御本家

長門守様より 思召を以被 仰出候御儀も有之候間、向後右名目相唱候儀、堅可無用事、

右之趣被仰出候間、海岸寺者勿論本寺於明王院ニ茂、以後心得違無之様、急返上相達置候、已上

三月廿二日

畑六郎

小倉次郎左衛門殿

塩津左司馬殿

